



レポート

日本の長所：起源と伝承方法

(その2) 長所の継承方法と持続性 松村 眞

R-51

発行日

2017.6.12

2. 日本の長所の継承方法

表 2 に日本の長所の継承方法を示す。長所を整理する前は「継承」ではなく、人為的な「伝承」を考えていた。しかし気候や地勢的な要件に起因する長所は、非人為的に継承される。したがって、本レポートでは人為的な伝承も含めて継承と表現することにした。また、主に外国人が指摘する日本の特徴には、安全性など産業の成熟によって達成された長所もある。このような長所の多くは、本質的に元に戻らない不可逆的な性質があるから、過去からの継承とはいえない。しかし長所には違いないので、継承の方法の一つに加えた。継承方法は、初めは方法だけで各長所への寄与度を評価できるものと考えた。しかし実際に評価しようとすると、抽象的な表現では判断に迷うことが少なくなかった。そこで継承方法に内訳を加え、具体性を高めることにした。なお、それでも寄与度の判断に迷うことが多く、客観性の確保が容易でないことがわかった。理系の分野と、社会科学の分野が大きく違う点であろう。長所によって寄与している継承方法は異なるが、多くの長所の継承に貢献している方法の寄与度を最右欄に示した。

自然関連の長所の継承には、自然の風景、気象環境、陸域環境が大きく寄与している。社会習慣の長所の継承には、日常生活で接する社会習慣の観察、就業体験、新聞や読書を通じた知見の習得、テレビ視聴、社会道徳の格言などが寄与している。テレビは日本の長所を直接的ではなく、娯楽番組に変換して伝えており、視聴時間が長いだけに影響が大きい。たとえば独創的な商品開発をテーマにした「プロジェクト X」は、チームワークの大切さを伝えている。だいぶ前の朝ドラ「おしん」は、忍耐と努力の大切さと、不遇な環境に耐えて社会に貢献する姿を、日本だけでなくアジアのほとんどの国に伝えている。

生活習慣の長所は、日々の暮らしの中で親が子に、祖父母が孫に伝えている。冠婚葬祭も、儀式を通じて長所の継承に大きく寄与している。結婚式では病める時も慈しむ「仁」を教え、葬儀では僧侶が宿命を泰然と受け入れる諦観を伝えている。形式的に見える初詣も、手を合わせて神に祈る行為が自然を恐れ、自然を敬い、神の前に謙虚であれと伝えている。

教育が日本の長所の継承に果たす役割は大きい。幼児に自分の部屋を片付けさせて整理・整頓と清潔を教え、学校給食の役割分担は組織の一員としての責任感を伝えている。子供は遊びや勉強を通じて社会道徳を学び、弱者へのいたわりを身

につける。近年は外国人が増えたので、まだ言葉のわからない外国人の子供には隣の子が教えて親切を学んでいる。道徳教育は文字通り社会道徳の教育で、小学校の図書室には多くの偉人伝があり、子供たちが競って借り出して読んでいる。

表 2. 日本の長所の継承方法（25 項目） ◎：寄与度大 ○：寄与度中

区分	継承方法	継承方法の内訳（具体例）	寄与度
自然	自然風景保全	自然保護（植林、動植物保護、公園造成など）	◎
	気象環境保全	温暖化防止	
	陸域環境保全	大気汚染防止、水質汚濁防止、廃棄物散乱防止	◎
	海域環境保全	汚染防止、富栄養化防止	
社会習慣	高等教育機関の教育	知的素養習得、協調性訓練、勤勉性訓練	○
	執務や就業の体験	組織活動能力育成、責任感・協調性・勤勉性訓練	◎
	個人的な交友	信頼関係育成訓練、信頼関係維持訓練	○
	個人と集団の旅行	社会習慣の新規習得	○
	地域活動経験	地域共同体構築・維持訓練、協働活動訓練	○
	社会習慣の観察	社会習慣の習得と自己習慣化	◎
	芸能接触	芸能の知識と理解の増進、素養の習得	○
	読書・新聞	知識と教養の習得	◎
	工芸接触	工芸品の知識と理解の増進	○
	テレビ視聴	知識と教養の習得	◎
	宗教や道徳の解説・格言	社会道徳の習得	◎
	趣味	集中力・継続力の向上	
生活習慣	家庭の日常生活	礼儀・言葉・信頼・共同体意識・貢献などの習慣化	◎
	冠婚葬祭	共同体意識と責任感、信頼関係の構築と向上	◎
	家庭季節行事	連帯感と責任感の向上	○
	地域イベント	共同体意識の向上	○
教育	家庭（しつけ）	基本的な道徳・社会習慣・礼儀・責任の習得	◎
	幼児（幼稚園）	共同体の基本ルールの習得	◎
	初等教育（小学校）	掃除・清掃・礼儀・言葉・協力的行為などの習得	◎
	中等教育（中高学校）	秩序維持・協調性・組織リーダーの育成	○
	不可逆的な水準の向上	社会の成熟化による社会水準の定着	◎

3. 各長所の継承方法と寄与度

本レポートの評価対象とした日本の長所は 130 件、継承の方法は 25 項目であ

る。そこで縦軸を日本の長所、横軸を継承の方法とする表を作成し、全長所について継承方法が適合すると思われるセルに寄与度を記載した。◎は寄与度が大きい継承方法、○は寄与度があるが大きくはない方法である。大きな表なので、説明用に一部の例だけを表 3 に示す。

この例で一番上の「道徳的義務感が強い」という長所は、次の 8 項目の継承方法で次世代に伝わることを意味する。①高等教育機関の教育、②執務や就業の体験、③個人的な交友、④地域活動経験、⑤社会習慣の観察、⑥読書・新聞、⑦テレビ視聴、⑧宗教や道徳の解説・格言。しかし表 3 は 8 項目が一様に寄与するのではなく、⑤の社会習慣の観察と⑧の宗教や道徳の解説・格言の 2 項目が他の 6 項目より大きく寄与することを示している。このような方法で、全長所について全継承方法の適合性と寄与度を評価した。なお、適合性や寄与度の評価には主観が入り込むのを避けられないが、項目数を多く採用することと、なるべく具体的に表現することで客観性を保つように考慮した。

表 3. 日本の各長所への継承方法の寄与度 (一部)

下の行 : 日本の長所 右の列 : 継承の方法 ◎ : 寄与度大 ○ : 寄与度中		自然		社会習慣													
		自然風景保全	気象環境保全	陸域環境保全	海域環境保全	高等教育機関の教育	執務や就業の体験	個人的な交友	個人と集団の旅行	地域活動経験	社会習慣の観察	芸能接触	読書・新聞	工芸接触	テレビ視聴	宗教や道徳の解説・格言	趣味
	長所の番号																
	道徳的義務感が強い	40				○	○	○		○	◎		○		○	◎	
	年長者に敬意を払う (敬語が詳細に体系化)	41				○	◎	◎		○	◎		○		○	◎	
	周囲の評価を配慮する (どう見られるか気を使う)	42				○	◎	○		○	○		○		○	◎	
社会性	順法精神が強い	43				○	◎	◎		○	◎		◎		○	◎	
	拾得物を私物化しない	44					○				○		○		○	◎	
	緊急車両優先によく協力する	45				○	◎				◎		○		○		
	公共道徳心 (公德心) が高い (公共の秩序を守る)	46				○	◎	○	◎	◎	◎		○		○	◎	
	私益より公益優先の意識が強い (身勝手が少ない)	47				○	○		◎	◎	◎		○		○	◎	
	秩序維持意識が高い (緊急時も)	48				○	○		◎	◎	◎		○		○	◎	
	品格が高い (道義心が高く不心得者が少ない)	49				○	◎	◎	◎	◎	◎		○		○	◎	
	団結力が強い	50					◎	◎	◎	◎	◎				○	○	
	協調性に優れている	51				○	◎	◎	◎	◎	◎		○		○	◎	
	公益を重視する	52				○	○		◎	◎	◎		○		○	◎	
	共同体帰属意識が強い (家族や所属組織への帰属)	53				○	◎	○	◎	◎	◎		○		○	○	
	他人の落し物を拾う	54											○		○		
	順番待ちができる	55				○	◎		◎	◎	◎		○		○	◎	
	マナーが優れている	56				○	◎		◎	◎	◎		○		○	◎	
	気配りができる	57				○	◎	○		◎	◎		○		○	◎	

4. 日本の長所の持続性

各継承方法の寄与度の大きさと安定性を考慮し、全長所の持続性を評価した。持続性の水準は次の4ランクにし、表1（その1）の「日本の長所（130件）」の右欄に記載した。なお、持続性の評価に際して考慮した要点は、それぞれ5行から10行程度のコメントとして記述したが、約20ページもあるので本レポートでは割愛する。

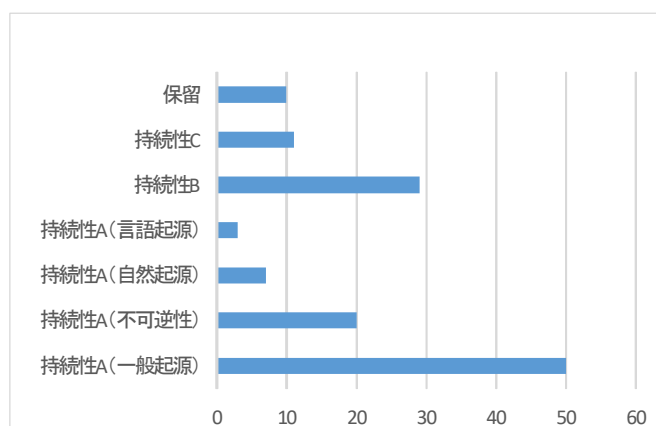
- A：持続性が社会状況にも、政治状況にも影響を受けにくい。
- B：持続性が社会状況の影響を受けやすいが、政治状況の影響は受けにくい。
- C：持続性が社会状況の影響を受けにくいが、政治状況の影響を受けやすい。
- D：持続性が社会状況によっても、政治状況によっても影響を受けやすい。

持続性の評価結果を整理したのが表4と図2である。全長所130件のうち半数以上の80件の長所が、社会状況にも政治状況にも影響を受けにくいグレードAの持続性になった。29件の長所は、社会状況の影響を受けやすいが、政治状況の影響は受けにくいグレードBの持続性になった。11件は、社会状況の影響を受けにくいが、政治状況には影響を受けやすいグレードCの持続性になった。残る10件は普遍性に乏しいか、または抽象的な意見なので評価を保留した。

表4. 長所の持続性分布

持続性区分	件数
持続性 A (一般起源)	50
持続性 A (不可逆性)	20
持続性 A (自然起源)	7
持続性 A (言語起源)	3
持続性 B	29
持続性 C	11
保留	10
合計	130

図2. 長所の持続性分布



持続性がAとなった80件のうち、7件の自然起源による長所と、3件の日本語自体の長所は、社会の状況や政治状況の影響を受けないから持続性が高くなる。20件の不可逆的長所は、主に製造業とサービス業が貢献している長所である。製品の品質や安全性は、社会の成熟に応じて要求水準が高まる。このため製造事業者は、この要求に適應して市場競争力を高める努力をする。製品の品質や

安全性の向上は、その結果である。したがって、一度到達した水準は再び低い水準に低下することがない。市場競争の原則と、その原則を担保する成熟した組織体（社会システム）が維持される限り不可逆的な向上なのである。サービス業に関する長所の大半も、製造業と同じ理由で不可逆的な向上である。私は製造業とサービス業に関連する長所から、日本は世界的に見て成熟度が高く、したがって国際競争力の高い国になっていると確信するようになった。

残る 50 件の持続性が高い長所（表中の一般起源）のうち、約 30 件は共同体を尊重する意識を基盤としている。組織の構成員が平等な立場で共存するために、全員が秩序を守り、組織運営に必要なことは協調して遂行する必要があるからである。品格が高い、団結力が強い、協調性に優れている、公益を重視する、共同意識が強い、順番待ちができる、マナーが優れている、気配りができるといった長所は、その結果といえよう。共同体形成は、共同作業が必要な米作農業が出発点であろうが、災害対策にも共同作業が欠かせなかったはずだ。日本は自然災害が多かったから、堤防工事や土砂崩れを防ぐ植林などにも、共同作業が必須だったであろう。共同体を尊重する意識は、大量生産型の製造業にも有効だった。このため、企業の組織は係、課、部、会社と階層構造になっており、上意下達の仕組みが完成している。共同体形成の伝承は教育機関でも実施されている。小学校ではクラスに級長がおかれ、多くの活動がクラス対抗で成果を競う。運動会では個人の運動能力に関係なく、全生徒が色分けされた「組」の一員となって得点を競うから、協調性や気配りの能力が育成されるのである。企業の終身雇用制度も、共同体形成を伝承している。

共同体の最大の理念は「和をもって尊しとなす」にある。一方、そのために 3 点ほどの短所を避けられない。その一つは「個」が評価されにくく、独自性の発達を阻害する側面である。二つ目は「いじめ」である。周りとは違うだけで、それが髪型でも服装でも異端視され、抑圧の対象になりやすい。三つ目は自立性や独立心が育成されにくい点である。このため、欧米諸国に比べてベンチャー企業が発展せず、長年のビジネス経験者にも指示待ちが多い。リタイアしたサラリーマンの多くが、自分のライフスタイルを容易に決められないのも同じ理由であろう。

共同体を重視する姿勢は、個人が組織に参入する時の「これから“よろしく”お願いします」という挨拶が象徴している。「私は新規参入者なので、これから皆さんのルールに従って協力しますから、仲間に入れてください」という意味だからである。学校や会社だけでなく、趣味のクラブや近所の小さなグループに参加する場合も、誰もがこの言葉を使っているはずだ。でも英語には同じ意味の適切な表現がない。翻訳する場合は“nice to meet you”に置き換えられることが多いが、既存の共同体に参入を求める意識は伝わらない。

持続性が社会状況の変化によって影響を受けやすい B グレードとしたのは 29 件である。内容は共同体意識の変化による社会秩序の低下、所得格差の拡大による公德心の低下、工芸職人の後継者不足による文化財の水準低下などである。工芸品や文化財については、従事者の処遇改善や予算処置など、国としての奨励策がもっと必要ではないだろうか。持続性が社会状況の変化ではなく、政治状況によって影響を受けやすい C グレードとしたのは 10 件である。多くは過去の伝統的な価値観による長所で、今では合理性に乏しいのが多い。失われても大きな損失にはならないと考えている。

5. 長所の起源と継承方法への宗教の影響

本調査では、長所の持続性を確認するために 25 種類の継承方法を想定し、該当性と寄与度を推測した。宗教については直接的な解説による寄与と格言を想定したが、直接的な解説は寄与度が小さく、格言や代表的なメッセージの方が大きいことがわかった。宗教は一次的な寄与よりも、二次的な寄与の方が大きいのである。本節では、長所の起源と継承方法への宗教の影響を考察する。最初に代表的な宗教の特質を簡潔に整理し、各宗教のどの要素が日本の長所の起源と伝承に寄与しているか述べる。概要の把握が目的なので、正確さや厳密さに欠ける点をご了解いただきたい。

表 5 に主要な宗教の概要を示す。儒教は孔子が創始者だが、神性がないから宗教というよりも、指導者の規範と社会道徳とあってよい。教義の内容が多数の格言で表現されており、中国、韓国、日本の 3 国で教材に利用され普及した。「義を見て為さざるは、勇無きなり」、「良薬は口に苦くして病に利あり」、「忠言は耳に逆らいて行いに利あり」、「己の欲せざる所は人に為す勿れ」などの格言は、ご存じの方も多であろう。教義の構成は「仁」、「義」、「礼」、「孝」、「忠」で、広範囲にわたって武士道に取り入れられ、多くの長所の起源になった。しかし、格言そのものが教えられ伝えられているのではない。教義の要素をテーマにした多くの伝記や小説が生まれ、書籍やテレビの番組を通じて伝承されているのである。なお、「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」のように、社会の階層性を前提にしているので、全面的に受け入れられているわけではない。中国では歴史的に何度か異端の教えとされ、普及が禁止されたり書籍が焼かれたりしている。

神道は自然発生だから、教祖も経典もない。自然のすべてに神が宿るとする多神教で、「八百万の神」として知られている。教義といえるものがあるとするれば、「無形の神を恐れ、神を敬い、謙虚であれ」ということにつきるだろう。日本になぜ神道が自然に発生したのか定かでないが、私は昔から多くの自然災害に見舞われ、避けられないことを悟っていたからではないかと推察している。だからこ

そ災害に遭遇しても慌てず、秩序を乱すこともなく、冷静に対処できるのではないだろうか。日本に滞在した外国人は、日本が、毎年のように台風に曝され、強風と大雨が被害をもたらすことに驚いている。年中行事のような強風、大雨、洪水、崖崩れ、地震、土石流、火山の噴火などは、外国人にとっては取り乱すのが当然の恐るべき災害なのである。神道は自然災害の宿命から生まれ、運命を神に託し、神を恐れ、畏敬する心情が定着したように思えてならない。神道の伝承は、定期的な神社への参詣が大きく寄与している。初詣だけで少なくとも 2000 万人が参詣し、手を合わせて家内安全や健康を祈願している。神社が日本全国に 8 万カ所もあることも伝承を容易にしている。

仏教の特徴は、現生で「得」を積みば来世で報われるとする教義にあると思う。「得」の内容が示されていないので、日本の長所との直接的な関連性が定かでないが、多くの社会道徳が含まれていることは間違いない。経典の般若心経は一般市民から遠い存在だが、代わりに僧侶が葬祭のたびに唱えてくれることを知っており、感謝してお布施を差し出す。施設として多くの仏閣があり、説教や座禅を通して伝承に寄与している。

イスラム教は厳しい戒律で排他性の強い一神教を堅持し、周知のように団結力が強い。中近東を中心に信者の数は多いが、日本にはほとんど影響を与えていない。キリスト教も一神教だが、イスラム教より戒律が緩い。日本には織田信長の時代から伝道師が訪れるようになり、布教に努めた結果、今では多くのキリスト教信者が礼拝を中心に宗教活動を展開している。教義は格言ではなく、説得力あるメッセージで伝えられることが多い。教会が日曜礼拝を通じて普及に努めているが、信者が他の宗教と比べて少なく、教会も神社や仏閣より少ないことから、日本の長所との関連性は希薄である。

本節の最後に、日本の長所の起源ともいわれる武士道について述べる。武士道は宗教ではないから、教祖も経典も存在しない。口伝で伝承されてきたのである。武士道の基本構成は、忠誠・勇敢・犠牲・信義・廉恥・礼節で、儒教と同じ要素が多い。しかし目的が武士、つまり戦う戦士のフェアプレー規範だから、神道や仏教の関連する要素も取り込まれている。表現は悪いが、各宗教の教義にある行動規範や社会道徳の「いいとこ取り」ともいえるであろう。ともあれ、武士道の正義感や清廉さが、武士以外の階層にも広く受け入れられ支持されてきた。このため、武士道をテーマに多くの小説や歌舞伎などの演劇が生まれ、現在も続いている。武士道は伝承の形態が教養や娯楽なので、波及効果が大きい。山本周五郎や藤沢周平はこの分野の代表的な作家だが、今もなお若手の作家が次々に誕生し続けている。それだけ儒教の教義が広く受け入れられているといえよう。「忠臣蔵」は、武士道の「義」を示す代表として全国民に受け入れられているし、武士道をテーマにした NHK の大河ドラマも多くの視聴者に支持されている。

表 5. 主要な宗教の概要

宗教	発足形態	教祖	神性	教典	信仰行為	社会規律
儒教（論語）	教祖出現	孔子	なし	四書五経	なし	上下、身分
神道	自然発生	なし	多神教	なし	参詣	なし
仏教	教祖出現	釈迦	なし	般若心経	葬祭	なし
イスラム教	教祖出現	ムハンマド	一神教	コーラン	礼拝	服装、食事
キリスト教	教祖出現	キリスト	一神教	聖書	礼拝	なし

表 5. 主要な宗教の外形と内容（続き）

宗教	特定施設	教義指導	主要な目的	道徳性表現	備考
儒教（論語）	なし	なし	指導者理念	格言	武士道の基本要素
神道	神社	なし	共同体守護	なし	自然への畏怖と受容
仏教	仏閣	解説	魂の救済	経	悟りと解脱
イスラム教	モスク	解説	信者一体化	戒律	団結力大、規律厳格
キリスト教	教会	解説	社会道徳	メッセージ	信仰心要求代

6. おわりに

- ①日本の長所に関心を持つようになってから、宗教や文化の歴史に関する書籍も読むようになった。社会科学系の分野に視野が広がったと考えている。
- ②関心を持つようになって、調査や評価の道筋が見えず、容易に客観性を担保できないことに戸惑った。社会科学と、自然科学や工学の大きな違いであろう。
- ③日本の長所について1件ずつ起源や伝承を考えることで、そのほとんどについて自分の見解を説明できるようになった（独善的な解釈もあるだろう）。
- ④日本は世界から見ると、共同体指向の点でかなり特異な国だと気がついた。
- ⑤産業分野の長所から、日本は本当に成熟した先進国になっていると思う。自分の国を、もっと誇りに思ってよいと思うようになった。
- ⑥長所の多くが自然環境、成熟社会、共同体指向に起因することと、現在も持続性が高いことに安心した。
- ⑦伝統的な工芸分野については、伝承について国家的な支援が必要ではないか。
- ⑧重要なことは日本人が日本の長所を認識し、誇りを持つことにある。そのためには、長所の根拠と継承の方法を正しく理解するのが望ましい。また、長所に付随する短所も認識し、意図的に抑制するのが望ましい。このレポートが、日本の長所に関心がある方の参考になることを期待している。

（おわり）